

第4回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和3年9月28日（木）10：00～12：00

場 所：四万十町役場東庁舎1階大ホール

出席者（17名）：横山 順一、泉 茂、尾崎 弘明、神田 修、佐々木 将司、
田邊 誠進、中島 克明、船村 覺、三浦 ひろみ、岡村 健志、
酒井 紀子、鈴木 幸代、野村 宏、藤澤 久美子、八木 雅昭、
山本 由美、田村 敬子
（敬称略）

欠席者（3名）：太田 祥一、横山 泰久、森 雅順
（敬称略）

事 務 局：四万十町役場企画課（4名）

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 前回会議の振り返り
- 4 後期基本計画（案）について意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

■ 会議資料

- 1 会次第
- 2 委員名簿
- 3 第2.3回総合振興計画審議会におけるご意見等について

■ 会議録

（事務局）

定刻となりましたので、第4回となります四万十町総合振興計画審議会を始めさせていただきます。開会にあたりまして、会長よりご挨拶をお願いします。

(八木会長)

皆さんおはようございます。朝早くから足元が悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。第4回の会となりましたが、9月の下旬となり農繁期ということで大変お忙しい中をお過ごしのことと存じますが、会議の進行についてご協力をよろしく願います。

さて、新型コロナウイルスにつきましては高知県下も新規感染者数が1桁に落ち着いておりますけれど、まだまだ油断できる状態ではありませんが、第6波が来ないように願っているところです。合併して15年半が経過しましたが、第1次の振興計画の中では自立と共生のまちづくりをテーマにして、人と自然が共生して、持続可能なまちづくりをしていくという方向で出されております。それに続いた第2次の計画につきましても、目指すまちの姿を描くとともに、まちの基本方針と人口の将来展望を示すということで、人口についても関心を持ちながら、発展維持を図っていくという方向になっております。

現在行っておりますこの審議会につきましては、第2次の計画の後期を策定するということを行っておりますが、町村合併時の目指すまちの将来像であります山・川・海 自然と人が元気です という元気な四万十町づくりのための後期の計画となるように皆様方のお力添えをお願いしたいと思います。合併当時2万人を超えていた人口は、今1万6千人となりました。出生者数も数年前までは年間100人程度でございましたけども、この2、3年は、2桁となっております。先日西庁舎の玄関に、8月末で出生者数が55人ということですので、今年も2桁で終わってしまうのかなと思っております。そういった中で、人口減少は地域の力を失っていく大きな要因であると思っておりますので、そういった点についてぜひとも関心を持っていただきたいですし、数年後には小学校の適正配置も避けられない状況でございます。そういう意味では、地域の疲弊もさけられない状況でありますので、そういったことを招かないための後期計画の策定にご尽力をいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、皆様方もご覧になったかもわかりませんが、今月号の広報の中に、これからの人口減少対策ということで、今後の取り組みのポイントとしましては、それぞれの地域ごとの人口や生活に目を向けながら施策を考え、どの地域でも生活していけるまちづくりを目指していくとなっておりますので、地域別の深刻さとかそういうものも含めて、この計画の中にもう少し盛り込んでいく必要があるかなと思っております。

その中で一つの例がありますけど、十和地区で3月末に小鳩保育所が新しく改築されておまして、その後の施設を住民の方が使って、この地域での利活用をしていくということで検討をされております。そういった自主的な活動が展開される中で、地域自治が進んでいくという、そういった方向性も出せると思っておりますので、ぜひとも後期計画の中でも検討もいただけたらと思っております。

本日の会議につきましては、後程事務局より説明がございますけれど、前回の振り返りと後期の基本計画案についても説明がありますのでよろしくお願いいたします。

(事務局)

会議資料について事務局より説明 〈省略〉

(八木会長)

前回の会の振り返りですが、先ほど事務局から説明がありましたところで、ご意見とかご質問いただきたいと思いますが。

それから、事務局より説明がありましたSDGsについてのご意見についてもお願いいたします。何かございませんでしょうか。それでは、まだ手が上がりませんので、私の方から1つご質問でございますが、2次の振興計画の答申書の中に具体的に書かれておりますが、この前期の計画の町民への周知と共有はどうだったのかというところと、地域での取り組み状況とかそういった例があれば具体的にお聞かせ願いたいし、協働のまちづくりについては実際どうなのかといったところなど、協働がどう進んできたのかというところもあまり見えてないように思います。アウトソーシングしたり、指定管理をしたりすることが協働のように捉えている一面もありますけれど、そうでなくて行政も議会も住民もともに汗をかいて進めていくということになっているかなと考えた時に、まだ若干距離があるような気がします。また、地方創生の推進ですけれど、本当に地方が元気になっていっているかというところは危惧をするところです。人口減少していく中で、生き生きと地方での暮らしが出来ているかと言われれば、そういう状況にはないと思いますので、それと四万十町と照らした時に、この答申とどうなのかということも、ご検討いただけたらと思います。

それから、この計画の進捗管理についても、議会等でも議論はされますけれど、住民の方にフィードバックされて、次の計画に繋げていくというのは、なかなか難しい面もありますので、住民とのコンセンサスを得る手段がどうなのかということも合わせて、感じるところで結構でございますのでご意見をいただけたらと思います。

(横山(順一)委員)

会長の言われていることと少し違うかもわかりませんが、冒頭にも話がありましたが四万十町の広報に、役場の職員の方が人口問題について研修をしたということで、そこでいろいろ課題が出てきたとか、様々な担当をされている方もいろいろと感じたところがあったのではないかと思います。そういった課題などを振興計画の施策に反映していくということが非常に大事だと思います。第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略にも書かれておりますが、人口減少対策が非常に重要だと感じていて、まちの活気とか産業など多方面に関連してくることだと思いますので、今の取組みが良いのかどうかということも再度協議もしていただけたらと思います。それと、まちの人口ビジョンで定めている目標値というのが、ちょっと下回っているのじゃないかなと思いますけれど、そういった点についても協議されたことがあれば、計画にも生かしていただけたらと思います。

(八木会長)

やっぱり人口が大事だと思いますね。まちの大きさが違いますけど、岡山県の奈義町は15年前は出生率が1.4%ぐらいだったのですが、2019年には2.9%ぐらい上がってるということで、やっぱりまちが人口を増やしていこうという積極的な施策をとって、子供の人口が増えたということをごさいますて、子どもの人口が増えれば自然とまちの活性化が図れると思います。

それと、先ほどの人口についての役場職員の研修の場に、総合振興計画審議会の委員の方にも声掛けいただけたらと思いました。やっぱりそういったことを共有しながら、町の将来に向けて一緒に考えていくと、そういう発想で行政の方も考えていただきたかったし、それが1つの行政と住民との協働ということでもあると思いますので、これからはぜひそういった視点で進めていただければと思います。

(事務局)

先程ご質問がありました広報に掲載されていた人口の数値の件についてですが、詳細の数値については今はっきり覚えておりませんが、令和2年度の国勢調査の速報値の結果についてですが、目標としていた人口の数値よりは若干下回っておりましたが、社人研の推計値は上回っていたという状況でございました。

(八木会長)

他にご質問はありませんでしょうか。

(鈴木委員)

高校は一生懸命、魅力化して残そうっていう動きがあり、でも一方で小中学校は統合してよりよい適正な人数にしていこうという動きがあり、どうしても矛盾を感じてしまいます。私が住んでいる昭和の地域については、昭和中学校が休校になったことで、見る間にさびれていきました。その辺の矛盾点は、もう少し何とかならないのかなと率直に思います。

(八木会長)

それでは、せっかくの機会でございますので、中島委員から順番にこの計画への思いですとか、この計画を推進するうえでこうしてもらいたいとか何でも結構ですのでご意見をいただけたらと思います。

(中島委員)

私は学校の教育にかかって携わるものですので、その視点で物言わしていただきたいと思いますが、先ほど学校の統廃合の問題が出されたのですが、特に小学校ですが、地域

住民への説明会も今年度から再開されると聞いております。学校に勤める者としては、その統合に賛成とか反対という立場ではないですので、行政と地域の方が話し合いをして、その結果に我々は従うというスタンスだと思っています。ただ、通学距離が遠くなって、地域から学校がなくなるっていうのは、やっぱり小さな地域にとっては非常に痛手になる面が多いと思います。統廃合というのはやっぱり子供のためにするという視点が絶対入ります。例えば小さい学校だと、同級生でドッチボールもできないというところもあります。しかし、統合すると、友達も増えるし、競争意識も増えるし、そういうメリットがあります。ただ、デメリットもあって、通学距離が非常に長くなり、スクールバスで通学するというので、下校の時刻も4時過ぎたら帰らなければいけないとか、そういったデメリットもありますので、子供にとってのメリットとデメリットを考えて、学校の統廃合を進めていって欲しいなと考えています。

(泉委員)

私も銀行の観点からということになります。四万十町は我々高知銀行から見た時に、すごく元気な事業者が多くて、町内で窪川支店と大正支店と2店舗がある町というのはなかなかないのではと思います。それぐらい経済活動が活発な地域ですけれども、非常にコロナ禍で、経済は停滞しております。その中で事業者をより元気にするような施策がまち・ひと・しごとというところだと思いますが、その部分の施策で1つ盛り込めることがあればいいんじゃないかなと思いました。

(佐々木委員)

私も商工会の立場として、意見をさせていただきたいなと思います。泉委員がおっしゃった背景もあるのですけれども、この町からどんどん人が増えていくっていうのは、難しい側面があるかなと感じております。どこの市町村もそうだと思いますが、やはり商工業の方でも、四万十町は県内でも結構活発な活動がされておまして、次の世代も育ってきていると思います。商工会青年部としても、仲間で手を取り合って、いろんな業種がいるわけですが、いろいろと話し合いを行いながら、切磋琢磨している状況であります。ただ、やはり大なり小なり規模感だとかというのはバラバラです。これは個人で解決できる問題とか、そうでない問題、例えば親の代から渡された時に、継承していけるのかどうか、自分たちがここで結婚して子供たちを、次の世代に渡していくことができるのかっていうところも含めて、やはり外に出ていくことを防ぐという施策も必要なのかなというのは考えておまして、やはり仕事というのは生きていく中で重要でございますので、しっかりそこら辺を町としても、チャレンジショップもありますけれども、経営の支援や新たなチャレンジに対する投資というところに、いろんな角度から支援を向けていただきたいなというのはあります。

(田邊委員)

自分も森林組合に勤務しているということで、職業の方からの意見となりますが、今の若い子については、あまり重労働をするという経験がなく、逆にパソコンやゲームなど、そっちの方面が多いうえに、スポーツすることも少なくなっている状態で、今の四万十町で就職を考えた時に、なかなかそういう方向の就職口もないと思います。逆に、農業とか林業とか漁業に関しても、重労働と言われる業種に携わる職が多いと思うので、そこら辺でなかなか就職をしてくれる方が少ないという面もあると思うので、逆に今の若い世代に合った職業というのが四万十町に何かあったらいいかなと思います。

(尾崎委員)

自分がちょっと思ったのは、総合振興計画が住民の方にどれだけ浸透されているのかということですが、この振興計画は目指すまちの姿を描いた計画ということで、行政がこういう形で進めていきますよということを計画にしていると思うんですが、どれだけ浸透しているのかということは、なかなか自分ごととして住民の方も、わからないかなというのは感じるところです。

先ほど八木会長も言われたように、今回の町の広報で役場職員さんが、町内の課題を話し合ったということが書いてあったと思います。それは行政職員から見て感じる場所だと思いますが、そういったことを地域住民が自分のこととして感じられるような場面を作ったりとか、こういう町をみんなで作っていきこうというような計画にならないと、自分事としては感じていけないんじゃないかなと、自分としては感じているところです。

この計画の町民への周知ということを見た時に、そういったところが少し弱いのかなと感じました。もう少し住民が自分のこととして感じられるような内容であるとか、身近に感じられるような文章にしてあげると、まちはこういうことを目指しているのかと感ずるのじゃないかなと思いました。

(神田委員)

毎回言っていることですが、人口規模が縮小していくことはやむを得ないので、縮小の幅を小さく抑える努力をしながらも、先を見据えた計画は必要ではないかと申し上げています。最初に鈴木委員がおっしゃった学校統合の問題も含めて、結局最終的には人口問題に繋がるとすれば、再生産を目指すのか、つまり育った子ども暮らし続けてくれるのか、それとも、どこからか人を呼んでくるのか、選択肢としてその二つの方針でいくしかないと思いますが、その際にももちろんそれぞれの学校現場で、どういう教育をしようかということも努力されているし、いろいろ目標持ってやっておられると思うんですけども、結局その先に高校を卒業した子ども達はどうするのかということですが、最終的にはもちろん一人一人の人生ですから、その子たちが選択するので、ここにいる皆さんは多分理想としては、その子たちがこの町で暮らしてくれることを選択してくれる、そういうまちづ

くりをしていかなくちやいけないということを思っておられると思いますが、その一方で、例えば高校を存続させるために大学進学を目指すとか、その先にはこの国とか世界のレベルで活躍する形になって欲しいという思いもあるわけですね。その辺の塩梅というか、バランスが難しいのかなっていつも思います。地方で一生懸命子供達に教育をして、うんと頑張った子達がまちから出て行ってしまうという現実はあるわけですね、それはそれで町としてとっても嬉しいことだけど、その一方でやっぱりこの町で暮らして欲しいという思いを大人たちが持っていて、子ども達がそれを選んでくれるまちを作っていかなければいけないと、そのための計画だということで、とても責任を感じているのですが、最終的にそここのところをきちんと話してまちづくりをしていかないと、中途半端というかそれぞれ頑張っているけれど最終的には、その子任せになってしまう感じがします。

(三浦委員)

日本中のどこもが人口を増やさないといけないということで、移住者の取り合いのようになっていて、そんな気持ちになるのも仕方ないかなと思います。私はすごく前に高知市内から就職の関係もあって、それから結婚して嫁いできたわけですけど、今では四万十町はもちろん育ったところより長いですし大好きで、子供は仕事の都合で3人とも出て行っておりますが、私としてはないものは数えるなということで、今あるものを見つめることが大事だと思います。四万十町は本当に良いものが沢山あると思います。私が一番言いたいのは、本当にお米がおいしくて、自然もきれいで、少し車を走らせれば1時間で高知市内へも行けますし、JRでも行けますので、そういったところで立地も非常に良いと思います。また、将来の南海大地震が来たとしても、窪川の台地部や大正・十和については津波も心配ないということですね。

それからこの前にも話がありましたが、高校生を地元にとの話がありましたけれど、一人一人の人生なので、あんまり言って子どものプレッシャーにならなければいいとか、そういうことも考えていました。もちろんお子さんもどんどん増えていったらベストだと思います。ただ、本当に昔の高齢者と今の高齢者は違うと思います。うちの運転手さんももちろんそうですが、戦力は高齢者ということで、もう高齢者っていう言葉もおかしいなと思うぐらい、そんな方達が元気で頑張ってくれている四万十町ですね。

今、移住者を呼び込むっていう観点で言ったら、皆さん働き盛りのときは、子育てや親の介護などで頭がいっぱいだと思います。そういうのが一段落して、退職してから、まだまだこれから第2の人生で何かしたいと考えている方が日本には沢山いらっしゃると思うので、そういったこれまでの仕事で培ったそれぞれの分野のスペシャリストの人たちが、この四万十町に集まるようになったら、いろんな知見のある方が集まって、そこからまた新しい仕事も生まれるかもしれないし、人生100年時代と言われている中で、まだまだ戦力になる世代の方達にうったえかけていくということも必要ではないかと思いますし、そういった方が集まるような魅力のあるまちになればと思います。また、いろんなことを体

験できるとか、教えてもらえる、学習できるまちっていう魅力がアピールできるようになればと思います。

(藤沢委員)

先ほど七里小学校の校長先生が学校の統廃合のことを言われましたけど、私も保育所で所長をしておりまして言わさしていただきますと、私が最後に勤めた保育所では、年長さんがたった1人の女の子でした。今は、小学校の5年生か6年生になっていると思いますが、複式学級でその学年では1人だと思います。やっぱり同年代の友達が必要だということで、保育所にいる時もあちこちの保育所へ遠足などの理由をつけて一緒に遊ばせてもらうということをしました。保育所も学校もそうだと思いますが、やはり、人間は集団の中で生活するということが非常に大事だなと感じました。統合に関しては、メリットとデメリットがあるということは、非常によく分かります。そのところは、先生方は子ども達と日々の生活の中で感じていることを、保護者に対して公平な立場で伝えてあげて、そのうえで保護者が判断できればいいなと思いました。

それと、高校のコーディネーターを今年引き受けまして、今年こられた校長先生は音楽が好きな先生で、まずやったことが昼食を食べるところへピアノを持ち込んだんですね。このピアノは教育委員会にご協力をいただきまして、丸山小学校にあった一番良いピアノをいただきまして、同窓会が運び賃を出してくれてということです。こんな高校が全国にあるのかなと思いますけれど、これは小さい学校だからできることなのかなと思います。子ども達が昼食を食べている時に、校長先生がピアノを弾いてくれるのです。それがとっても素敵なのですね。そういったことがいきなり学力には繋がらないかもしれないけれど、何かの形で子どもの心にも残ると思いますし、そういうことが出来たということなんです。

また、給食についても野菜がたっぷり入った給食で、子ども達もよく食べています。こういった点の取り組みがそのうち線につながって、いろんな経験をしてまたこのまちに帰ってきてほしいと思っています。

(山本委員)

四万十町は、山・川・海 自然と人が元気ですというのをアピールしてるわけですけど、先週の日曜日にコロナ禍も少しおさまったということで、西土佐に行ってきたのですが、その時にツガニを売っておりまして、買って食べてとてもおいしかったのですが、ツガニがいるということは自然がまだ残っているのだなと思ったことでした。四万十町は食材の宝庫ですので、ジビエのイノシシとか、タケノコ・ワラビとか、ショウガや豚肉など沢山あるわけですから、レシピのコンテストか何かやって、アピールしていてもいいなと思いました。

それから、昨日でしたか、ケーブルテレビで企画課の方が四万十音頭だったと思います

けれど、町長さんも一緒に踊ってましたけど、面白くて何回もみました。四万十町のよさをそういう面でも、アピールしていったらいいなと思いました。

それと、平串のインターを降りたところに、四万十町をアピールしている看板がありますが、私は松葉川の出身ですが、いろんな方に松葉川温泉の行き方をよく聞かれるのですね。ですので、いろんなところに、案内看板を立てたら良いと思います。

(野村委員)

農業についてですが、移住者で新規就農される方もいると思いますが、スムーズに地元で定着できるように、行政や地域の手厚いサポートが必要と考えます。私は、四万十市に長いこと住んでいたのですが、四万十市の友人達は農産物について、四万十町は生産のまち、四万十市は消費のまちというふうに語っていました。この移住者の方たちが、農業生産の一翼を担うということがこれからあり得ると思いますので、なるべくそういうことがスムーズにいったらいいなと期待しております。

(酒井委員)

私の場合は答申書に対する意見と、今回の会のことと、今後の全体の会についてお聞きしたいのですが、最初に今日の会は大変楽しいと思います。これだけいろいろな方がいらっしやる中で、多様な観点から掘り下げた意見を聞く機会がこれまであまりなかったのので、とてもいい機会をいただいたなと思っていて、今後も進める際は皆さんの意見が聞けたらすごくいいなと思いました。あと、この委員の任期についてですが、令和4年8月までの任期だったと思いますが、この振興計画は完成して出るのが令和4年3月に出ると思いますが、その後の8月までの任期については、何を考えておいたらいいのかなということをお聞きしたかったのと、あと尾崎委員さんがおっしゃっていたことで、町民に向けて分かりやすくということですが、先日総合振興計画を絵本にしている自治体がありまして、どこの自治体だったかは忘れましたが、割と絵本にすることとはすごく高度な事だと思いますが、このまちは町民全体でこういうことを目指しているよということが、保育園は難しいかもわかりませんが、小学生ぐらいから分かるように手にとって見れるものであった方がいいのではないかと、そうしているうちに、自分ごとに考えられるようになるのではないかとと思いました。それと、前期計画の答申書をみたときに思ったことが、答申書の中で私はもっと四万十川を中心に据えてほしいということです。いろんなもののベースになっていると思いますので、特徴や印象をつけるためにも、やはりその名前が答申書にも入ってほしいなと思いました。

(事務局)

先ほど、ご質問がありましたのでお答えさせていただきます。任期が令和4年8月まで、3月に計画書が出て、それから8月の間どういったことするのだろうかというご質問

だったと思いますが、今の予定では例年行政評価や地方創生推進交付金事業の評価を行っていただいておりますので、そういったところを考えております。

(鈴木委員)

皆さんご存知のことではありますが、日本全体で高齢化率がすごいスピードで上がっていて、そのことを仕事柄よく考えるのですが、高齢になりこれまでできていたことができなくなるという方が増えていて、例えば自力で買い物や病院に行けなくなるとか、個人の努力では、どうにもならないことがあって、それを町の仕組みとして支えていくっていうところを、もう少し計画の中心部の方に持ってきていただきたいと思います。どうしても自分の印象では、全体的な計画っていうのが、観光に来てもらうであるとか、商品を開発して、たくさん売るであるとか、移住してきてもらうであるとか、それもすごく大事なことだと思いますが、もう私が住んでいる十和地区は、半分以上が高齢者でいろいろな困りごとを仕事柄聞くのですが、そういうことに対して町ができることっていうのを、もっと福祉の部門だけではなくて、もっと町の中心に持ってきていただきたいと切に願っています。

それと、人が衰えていくことに対して、環境からアプローチをするという研究が最近進んでいて、ぜひそういったところを参考にさせていただいたら皆が暮らしやすいまちになるのではないかと思います。

(船村副会長)

自分が預かっている区長連絡会もそうですが、根本的な問題は人口減少ということに尽きると思います。先程会長が言われました行政区の再編や、小中学校の統合の問題、商店街の活性化についても、全て人口問題に起因するものであると思います。総合振興計画の最重点としておこななければならない問題は、いかに四万十町に移住をしていただくかや、この四万十町でどれぐらいの男女が結婚し子育てや教育がしていけるような環境づくりをいかに整えることができるかだと思っています。いろんな問題の原点は、そこにあると思います。これを解消すべく町の方でもいろんな面で努力しがんばってもらいたいと思います。

(田村委員)

SDGsの話もということでありましたので、振興計画の24ページにもきれいに整理をされているので、書いてあるとおりでと思います。SDGsはそんなに難しいことではなくて、まさしくこの中山間地域で、住み続けられることが、私はSDGsなのかなっていうふうにも思います。県としては今年度から割りとは本格的に、SDGsの施策を打ち出そうとしておりまして、目標としているのが3つあり、1つ目はグリーン化、2つ目はデジタル化、3つ目はグローバル化ということを目標に掲げ取り組んでいます。

商業振興の観点からご紹介させていただきますと、SDGs は行政や事業者さん、そして住民の方々もそれぞれ1人1人が、1つずつ意識して取り組んでいくことが大事ですけれども、特に産業振興というところで、事業者さん向けに取り組みを始めているのが、例えば事業者さん向けに講座をしたり、SDGs について取り組んでいますと宣言をして計画を立ててくださった事業者さんについては登録をして、広報やPR をしていったりとかですね、どうしたらいいか悩んでいる事業者さんについてはアドバイザーを派遣したり、そういった取り組みを行ってございまして、もしかしたらそういった取り組みが、今後のまちの特色となって売りになっていくということも考えられるのかなと思います。それが、今すぐ若者の中でも意識の高い方も多いですので、学校教育や小さい時からそういう意識づけをしていって、大きくなった時に若者に選んでいただけるようなまちになるということも長い目でみると大きな総合振興計画になるのではないかなと思います。

この施策には、いろいろときめ細かく施策が書かれているのですが、これをきちんとやっていくと、ここで住んで人が生き生きと暮らせるまちになるということを目指して、取り組んでおられると思います。よく言われているのですが、そうやって生き生きとして暮らしている姿をみて、なんか楽しそうとか思ってもらえるまちになることが、観光につながったりとか、この人とつながっていたら楽しかったということで交流につながったり、それじゃあもう少し住んでみようということで移住につながったりで、観光、交流、移住ということでどんどん繋がりが出来ていくということが、そのまちの住民にとっての元気なまちづくりになっていくのではないかなと思います。まずは住むところと仕事があって、次に住み続けるためには福祉、子育て、教育などが充実されているところなどが選ばれるまちにつながるのではないかなと思います。

(岡村委員)

まず初めに答申の意見ということで、まず今の計画はですね、分野別にわかりやすく整理されていると思います。皆様のご意見にもありましたが、なかなかわかりづらいということで、それをわかりやすく発信するというのはいいなと思ってお聞きしてはいたけれど、もう一つの観点で申しますと、これは第2次総合振興計画の後期計画なので、前期とは違うということですよ。わかりやすく言うと、前期こうやってきたんだけど、こういうふうに変えようとかちょっと違うということだと思います。そういう前期と後期ということで着目をして印象があるのが、前回も申し上げましたがコロナです。コロナそのものではなくて、コロナによって受けた我々の影響をどうリカバリーしていくのか、推進していくのかという観点です。例えば、キャンプということでいえば、コロナによって注目が高くなっているということで、ミクロに落としていくとじゃあそれがどうなるのということですね。前期は5年あったのですが、5年のうち2年はコロナだったわけです。40%ですよ、非常に大きなシェアです。

2つ目は広い意味で多様性ということ。国際社会との共生とか、女性のだとか、た

くさんありますけども、そういった多様性っていうのはやっぱりこれだけ言われてる中でという話です。

それから3つ目は、振興計画の中で明確に書かれているのですが、町長のご挨拶ですとか、冒頭の社会潮流のところでは書かれていますが、デジタルということ。それから4つ目は、事務局の方からお話がありましたこれからSDGs中心に据えてということで4つぐらいかなと思います。この総合振興計画が分野別に書かれているっていうお話しましたが、この4つは分野ではないのですね。横串なのですよ、だからなかなか表現しづらいわけですが、だけどそういう時代なわけですね。だからそれを随所に見える化していくということが1つのポイントかなと思います。

例えばデジタルについては、少しわかりやすく表現してあげるとか、随所に言葉を入れてあげるとかいうことも1ついいかなと思います。

それから、SDGsの推進について大変力を入れていることは、私も存じあげておりますし、大変素晴らしいことですが、まだSDGsに取り組みはじめたばかりということも実態かなと思います。これは、四万十町だけでなく、わが国全体や世界中がそうだと思います。そういう中で今の総合振興計画の中では、SDGsについて正直に申しますと、施策とどれが関連するかということ表現しているにすぎないということですね。求められているとは書いてますけども、推進するまでは書いていないですよ。今はそれでいいにしても、これからの5年間の計画の中で推進するのであれば、推進するとはっきりと表現することもそうですし、具体的にどれがSDGsなのというところですよ。そういったところをSDGsのためにこの施策作りましたとか、この事業がありますなど、今まではこうやってましたが、SDGsのためにこういうふうにチェンジしましたといったところが、これからの5年間の中でより具体化していくことが重要だと思います。

(八木会長)

ありがとうございました。皆さま方にご意見をいただいたわけですが、いや、自分はこう思うとか、言い足りなかったという方がございましたら、ご意見いただきたいと思いますが。後期の計画についての意見があらかた出されたように思います。

前回の振り返りはなしということで進めてまいりましたので、今日出された意見を中心にしながら意見としてとりまとめていきたいと思っています。キーワードですけど申し上げますのでご意見があればいただきたいと思っています。教育とか人口、産業、雇用、全体の縮小、魅力化、まちのPR、SDGsといったものが皆様のキーワードとして感じとれましたけれど、合併して15年が経って、この総合振興計画がなかなか浸透していないというご意見もありましたけれど、まちづくり基本条例にあります情報の公開、共有、参画、協働といったキーワードがまだ進んでいないようにも思えます。じゃあ住民がどう参画してきたかなかなか具体的なものが見えない、情報共有というところで計画が住民に理解されていない、また協働で一緒に進めていくというスタンスがとられていないと、まちづくり

基本条例にあります柱がまだまだ弱いかなと感じましたので、後期の計画の中では具体的に進めていくために、皆さんから出されたキーワードをより肉付けして進めていくことが必要かなと思っております。まだ時間がありますので、皆さんからのご意見がありましたらお願いします。

(岡村委員)

今会長がおっしゃられたことで、この総合振興計画が十分浸透していないということで、皆さんおっしゃられて、会長からもお話がありましたけども、浸透していないのかどうか、まだ私には実感がないのですが、じゃあどうなれば浸透しているのだろうかというのも私は思うわけですが、その浸透していないのは行政の責任だってなるのは良くないと思います。正直我々、委員としてそういう責任も持っているはずなので、我々自身が責任を感じるべきだと思います。それから協働という言葉を使うときに、町民は受け手だけなのかということですね。町民も積極的に知ろうとすることが大事で、協働という言葉を使う時には、やっぱり平等にみんなが同じ立場で関わろうとする精神が必要だと思います。ぜひ答申の中で触れられる場合には、総合振興計画が浸透していないから行政ががんばれではなくて、町民も我々も委員もみんなががんばってちゃんと関わってこうねというスタンスで発信をお願いできればなと思います。

(八木会長)

岡村委員よりご指摘をいただいたところはですね、誰の責任ということではなくて、やはり日常的に協働して、この計画を進めていくという発想が全体的に乏しかったかなというふうに思います。

それぞれの住民の役割を果たしていけるような作り方が必要ではないかと思います。先ほど私も少し苦言を呈しましたが、例えばまちづくりの講演会があれば、職員に対してであっても、こういった公的な委員も参加して、一緒につくっていくという体制がないと、なかなか計画をつくって行政だけで進めていくということも現実的には不可能ですので、そういう意味ではできる限り住民と関わっていくという日常的な取り組みもお願いしたいというところで申し上げたところです。

他に皆様方のご意見はありませんでしょうか。

(横山(順一)委員)

この振興計画は、来年の3月に公表されるということなのでちょっと確認したいところですけど、自分の間違いかもわかりませんが5ページに、人口のことが書かれておりますが、総人口と年齢3区分別の人口というのがあって、ここの人口の数字が足してみると違うところがいくつかあるのですが、これの出展は国勢調査ということで、両方載っているもので、どうしてなのかなと思ひまして。上のグラフと下のグラフで40人ぐらい人数が違

うのですが、何か理由があるかも分かりませんが、もし間違っていれば訂正をしたらと思います。

それから18ページに、町の将来像というところがあって、2行目に四国山脈という表現があるのですが、讃岐山脈というのは四国にあります、四国山脈というのではないと思うので、四国山地の間違いではないかと思しますので確認をいただけたらと思います。

それから公共交通の整備とか支援とか、そういったものが書かれていないのではないかなと思いましたので、公共交通についても支援とかやっていることは沢山あると思いますので、そういったところを書いたらどうかと思いました。それと71ページから行財政運営の方針というのが書いてありますが、ほとんど中身が前回と変わっていないかなと思います。これも新しく地産外商なんかも入ったところがありますし、後期に新しく入っている事業もありますので、そこらあたりも検討したらどうなのかなというふうには思います。

(八木会長)

他にご意見やご質問はありませんか。

(泉委員)

SDGsのところですが、17の持続可能な開発目標ということで、かなり幅が広くて、じゃあいったい何をどうするのというところが悩まれるところだと思いますが、窪川・大正・十和でそれぞれの地域の課題があると思いますので、それに合わせて1番当てはまるものを地域のアクションプランみたいな形でやっていけばいいことはないかと思います。私が見ているところでいうとどうしても経済の方の話になるのですが、九番の産業と革新技術の基盤を作ろうといったところなんかが、窪川のまちではいいのではないかなと思ったりします。それぞれの地域で考えてやっていく事で、人口減少の解消に繋がったりとか、地域資源を活用して商工業が発展するとか、そういったことに繋がれば理想かなと思いますので、ぜひそういったところを検討いただければと思います。

(八木会長)

地方創生の流れの中で、地域ごとに考えていくというやり方もよろしいのではないかと
いうご意見だと思います。他にございませんか。

(岡村委員)

いろんな委員の方から、人口減少の話が出たのですが、ぜひご検討いただきたいのは、人口減少という言葉を使う時には、担い手という言葉と、愛着ってことをセットでぜひ使っていただきたいなと思います。いわゆる数だけの議論でいいのかということ、質に目を向けませんかということです。ある研究で、懸念されていたのが本当に数だ

けの人を集めて地域は良くなりますか、逆に地域の負担になることはありませんかということ課題提起されている先生がいらっしゃいました。その先生は、担い手という言葉を使っていたのですが、担い手になれるような人を本当は皆さん欲しいのではないですかということです。その時に、担い手は何かということですが、活動を一緒にやってくれる人だとかそういったことだと思います。活動をしたいという気持ちと地域への愛着ということがなければということで、ぜひ数だけの議論ではなく、質もセットに使っていただくとより四万十町らしいかなと思いました。

(酒井委員)

冒頭でSDGsのことについて少しご意見が欲しいというお話があったので、できたらみんなで同じ内容を見て、それぞれの立場で意見を言うということをするときに、SDGsの講座じゃないですけど、会議の前に何か一つあって、例えば国としてはこの事業計画にはこのぐらいの補助金がつくとか、こういった活動をしている例があるとか、具体的に落とし込んでいっているものとかを全体的に最初に情報として出してもらい、みんなで見る事ができれば、それぞれの立場でまた新たなアイデアとか考えが出るのではないかと思います。

(八木会長)

なかなか今のタイミングでは難しいとは思いますが、今後新しい施策とかそういったことが出た時には、事務局の方で紹介する場を設けるといこともお願いしたいと思えます。他にございませんでしょうか。

(神田委員)

皆さんの話を伺っていて、分かり易さという点で1つ思ったことですが、この振興計画もいろいろ工夫されて見やすくできていると思いますが、これをさらに一歩進めて、例えば職員の方が住民の方に説明する時の、何か媒体やメディアとかそういったものが必要ではないかなと思います。酒井委員より絵本ということが出ましたけれど、皆さんが共通でもってそれを話せるものが必要ではないかなと感じています。先ほど岡村委員からベースになるところ、コロナのリカバリーであるとか、多様性とか、デジタルとか、どこのまちでもやっていくということがベースにあって、その先に多分もう一つうちのまちは他とは違うよっていうのが必要だろうなと思います。それが多分この町の魅力で、それを町の人たちが、この委員さんも含めて話していく共通のものがあつたらいいのかなというふうに思いました。

(山本委員)

岡村先生がおっしゃったように、やっぱりコロナは外せない問題だと思いますが、四万十町でも6時半ごろに放送してもらっていますけど、今日はコロナが何人出ましたとかい

うのがすごくいいと思います。

ケーブルテレビもよく見るのですが、まだコロナのワクチン接種率は100%までは行ってないと思いますので、なるべく接種率が上がるように取り組んでもらいたいと思います。

(酒井委員)

愛着の点でいうと私はどうしても個人的に四万十川は本当に外せないというのは、一番思うことで、私はライダーズイン四万十という宿泊施設の管理人をしているので、鮎のお客様のご意見をよく聞くのですが、横の繋がりがものすごく、皆さんインターネットとかSNSとかをすごくフル活用していて、今の川の状態をみんなで情報交換しています。どこの川の漁協が積極的に川の保全に貢献していて、こういう地図を出しているとか、どこの川が激流で面白いか、全部つぶさに情報交換はしていて、1つ記事を上げるときに3000人見にきたりそういったことが普通です。やっぱり、観光のためとか、お客様のために川を綺麗というわけではないのですが、町民が一体となって川の保全とか、そういうことに関心があって、自然環境に対して町民の意識の高まりがあるということについては、基幹産業を守るとか、すべてにおいて相乗効果があると思うので、文化的施設ともどもすごく浸透して欲しい意識ではあるなと思っています。

(八木会長)

四万十川のアピールを出して欲しいということですが、他の委員さんのご意見はありますか。多くの皆様からご意見いただきましてありがとうございます。後期計画の基本的な考え方について出していただきました。前期5年間の総括をしながら、後期計画の5年を進めていくということで、ましてや人口減少も激しくなっておりますし、地方創生という言葉だけではなくて、自分たちが地方を作り上げていくという意味では、住民主体の地域活動が大事だと思いますので、そういう、住民と議会と行政がですね、地域自治について一緒に進めていくという姿をこの計画の中で描いていただきたいなと思いますし、わかりやすい表現で、この四万十町の将来をですね、見える姿にしていきたいなと思いますので、皆様方のご意見に感謝しながらですね、一応今日の話はここで打ち切りたいと思いますがよろしいでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。そうしましたら、今日出していたご意見をまとめさせていただきます。次回の会議でその答申書の中身についてご確認をいただいて決定いただくということにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(船村副会長)

どうも長時間ご意見ご審議いただきありがとうございました。事務局の方からもご説明がありましたように、年内にあと3回の会を予定しているようでございます。また、次回も皆さん、コロナの方にも気を付けていただきまして、会議が開催できることをお祈りしまして閉会の挨拶とさせていただきます。どうもお疲れ様でした。

— 閉会 —